

【辞典】

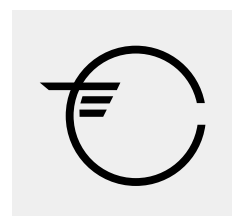
【玉川村の由来】

1955年。旧泉村、旧須釜村が合併し玉川村が誕生。村の名前の由来は、当時の須釜村の村長が新しい村の名前に須釜村の沢の水を水源として、泉村の中央を流れている玉川の名前にちなみ「玉川村」と、旧村名の頭文字をとった「須泉村」の2つを提案。その提案を受け泉村は、相馬の妙見神社がかつて、泉の庄玉川の辺りに鎮座していたという古事もあるということで「玉川村」案を後押し。須釜村も「泉が須釜村と合わさって玉川になる」という象徴的な意味も込められているとして「玉川村」に決まりました。（合併記録より）

※「玉川」は昭和41年に一級河川「泉郷川」と指定され、その名を現在にはとどめていません。

※妙見神社・両村境の玉川沿いの小高い森に鎮座する社である。

【村章】「昭和49年制定」



玉川村の頭文字「た」を図案化したもので、村民の和と協力によって明るく豊かな村づくりに着実に進む玉川村を象徴している。この村章は一般公募によって選ばれたもので、作者は「た」の一画目を、未来へ向かって躍進する玉川村を表す「翼」としてデザインしています。

役場敷地内に立つ合併記念碑



玉川村の生い立ちと裏には
功労者の名が刻まれています。

合併記念碑銘文

第二次世界大戦が終結の後、町村行政の複雑化と財政貧困のため、これが打開策を講じなければならない状態となったので、政府は之に応じて、昭和二十八年九月一日町村合併促進法の制定に依り改革に踏み切ったのであります。

ここに於いて各町村とも隣接町村との間に幾度かの話合いが行われ交通の便、或いは立地条件等のために離合集散難行を極めたが、遂に泉・須釜両村の歩み寄りをみて昭和三十年二月五日第一回合同会議を須釜小学校に開催するに至りました。

この席上両村合併促進審議会を結成、改めて両村の合併を決議、村名を玉川村と命名することを満場一致で決定しました。その後両村議会に於いて正式議決、同年二月十八日合併計画書を県に提出、同年三月三十一日付を以て、ここに待望の玉川村は目出度く誕生したのであります。

顧みれば合併促進法施行以来、隣接町村との折衝から合併実現に至るまで長期間にわたる村民各位の御協力に対して深甚なる謝意を表しますと共に、当時役員として苦心、その衝に当られた方々の労苦は多大なるものがあり、ここに功労者名を列記して長しいにその功績を讃えるものがあります。玉川村発足当時の総人口は、九、〇四二人、役場職員二八名、予算規模二八、一四八、八九三円の純農村であったことを付記するものであります。「付して曰く、和を以て貴となす」と。

昭和四十二年三月三十一日

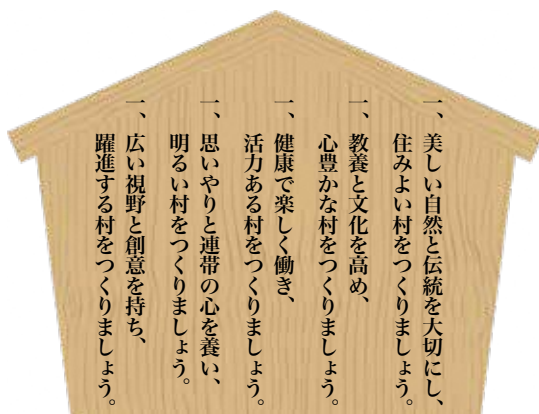
玉川村初代村長 大木 一夫 撰文

佐久間 榮 敬書

【村民憲章】

〔昭和60年11月制定〕

玉川村の住民として誇りと責任を持ち、美しい自然と伝統ある郷土を愛し、さらに活力に満ちた魅力ある村づくりを進めるため、この憲章を制定し実施します。



村民憲章は、村の30周年を記念して制定されました。村民や学識経験者で構成する「村民憲章制定委員会」によって素案作りが進められ、1985年11月に広報たまかわや村文化祭の「村民カラオケ大会」の会場で発表されました。

【玉川村のシンボル】

村民憲章の制定にあわせて定められた、玉川村のシンボル。

いずれも村内全域に繁殖並びに生息し、親しまれている自然や生き物であり、赤松は〈豊かさ〉、山鳩は〈明るさ〉、山鳩は〈活力〉の象徴とされている。



村の鳥：山鳩

鳩に三枝の礼あり、平和を重んじ未来に羽ばたく。わが村の躍進発展を象徴する。



村の木：赤松

古来から尊ばれ、長寿、節操を重んじる木といわれ、わが村の繁栄を象徴する。木言葉：「不老長寿」「慈悲」など



村の花：山桜

花王といわれるさくらは、わが村の明るく豊かな村づくりを象徴する。花言葉：「あなたに微笑む」「高尚」「美麗」など

【70周年記念ロゴ】



玉川村の村制施行70周年を、皆さんと一緒に祝い、喜び、その想いを発信するため記念ロゴマークを作成しました。

70周年記念ロゴマークは、村のこれまで歩んできた「歴史」とこれから力強く歩み続ける「未来」への想いを込めてデザインしました。数字の「70」は、70年という節目を示し、「0」の部分に村章を組み込むことで、玉川村の誇りや伝統、地域の一体感を象徴しています。

また、村章をロゴの一部として用いることで、これまで支えてきた村民の皆様への感謝と、郷土愛を込めており、70周年という大きな節目を迎えた玉川村が、これまでの歩みを大切にしながら、未来へと力強く進んでいく想いを示しています。

【山鳩のクックちゃん】

名	前…山鳩のクックちゃん
性別	男の子
生年月日	平成3年(1991年)10月17日
性格	格…恥ずかしがり屋だけど、チャレンジ精神旺盛
目標	玉川村を広くアピールして、有名にすること 鳥なのでいつの日か大空を舞いたい！
身分	玉川村の名誉職員として 平成3年(1991年)11月1日付けで辞令交付

平成4年1月号に初登場した山鳩のクックちゃんは、福島空港を中心にした村づくりを進めるにあたり、村の象徴とし誕生しました。東京玉川会の会員で小高出身の原敏子さんと漫画家のイシグロカオル先生が作成しました。デザインにあたり、村の風土や歴史、文化を丁寧に調べ、その中から村の鳥・山鳩をモチーフに採用。誕生から今年で34年、玉川村の歴史の半分を共に歩んできました。

